

写真展示 13日より毎日、午後12時～午後6時の間、以下の写真展示を行っております。



**森口 節** ●プロフィール：テレビ・ディレクターとして、写真家として、そしてひとりの〈ヤマトんちゅ〉として50年代より沖縄の離島を歩きつくし、祖国復帰へとむかう狂騒のかけで米軍統治下の不条理を生きる人びとの、声にならぬ叫びを捉えつけた。『さよならアメリカ (沖縄写真家シリーズ 琉球烈像 第7巻)』など。

**大城 弘明** ●プロフィール：記憶のなかの「マリジマ=生まれ故郷」を訪ねる旅路に、レンズは終わることのないイクサの間を捉える。沖縄戦最大の激戦地のひとつ、三和村福地に生まれ育った写真家が眼差す、戦争の爪痕と政治の倒錯。『地図にない村 (沖縄写真家シリーズ 琉球烈像 第4巻)』など。



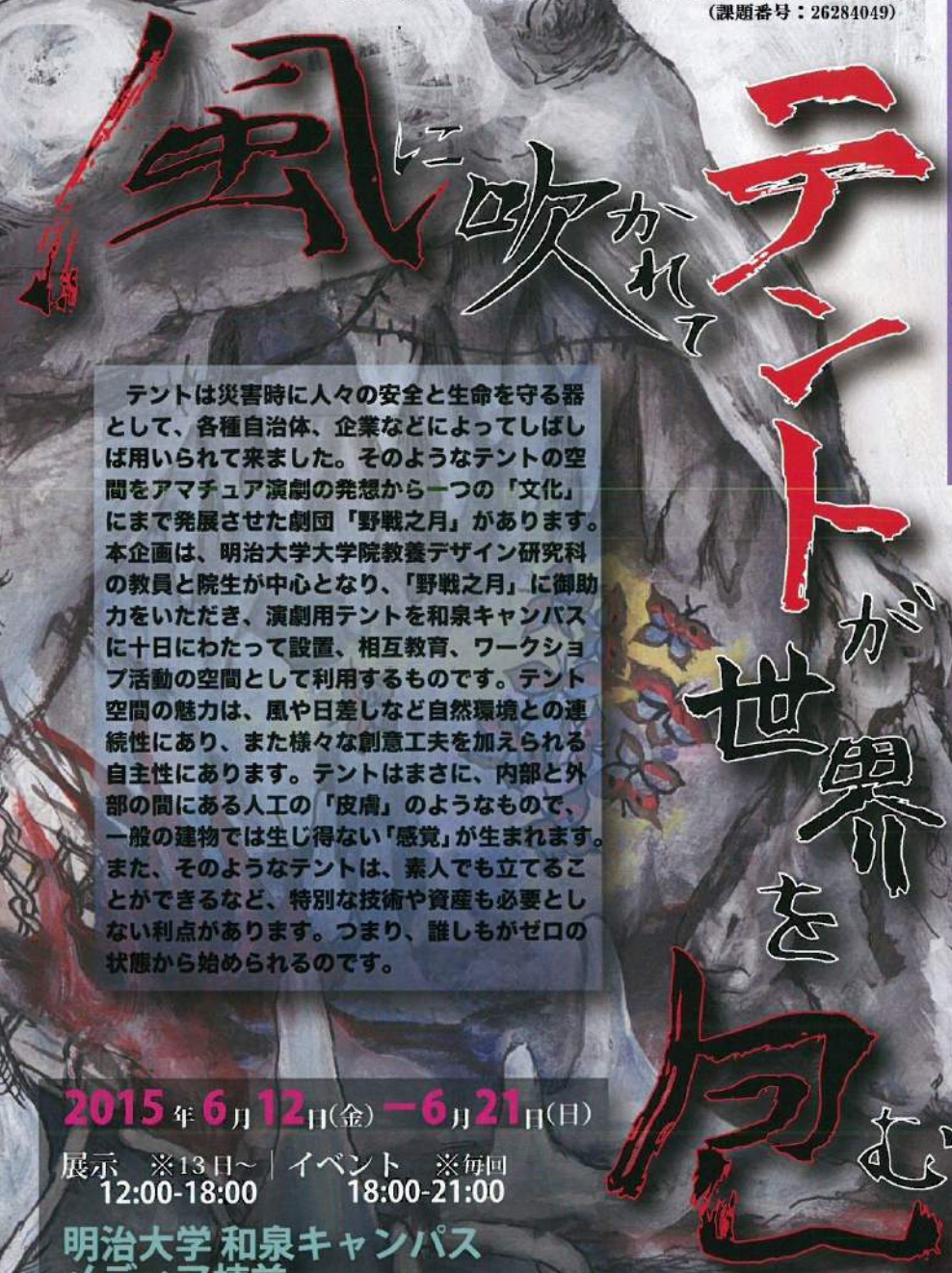
○学外の方は

参加されるイベントを明記して以下の連絡先に申し込んでください。

E-mail:humanity@mics.meiji.ac.jp

Tel:03-5300-1529

明治大学大学院  
教養デザイン研究科



テントは災害時に人々の安全と生命を守る器として、各種自治体、企業などによってしばしば用いられてきました。そのようなテントの空間をアマチュア演劇の発想から一つの「文化」にまで発展させた劇団「野戦之月」があります。本企画は、明治大学大学院教養デザイン研究科の教員と院生が中心となり、「野戦之月」に御助力をいただき、演劇用テントを和泉キャンパスに十日にわたって設置、相互教育、ワークショップ活動の空間として利用するものです。テント空間の魅力は、風や日差しなど自然環境との連続性にあり、また様々な創意工夫を加えられる自主性にあります。テントはまさに、内部と外部の間にある人工の「皮膚」のようなもので、一般の建物では生じ得ない「感覚」が生まれます。また、そのようなテントは、素人でも立てることができるなど、特別な技術や資産も必要としない利点があります。つまり、誰もしがゼロの状態から始められるのです。

2015年6月12日(金) - 6月21日(日)

展示 ※13日～ | イベント ※毎回  
12:00-18:00 | 18:00-21:00

明治大学 和泉キャンパス  
メディア棟前

参加無料

特設テント

- 6/12(金) リウセイオー龍 (劇団「野戦之月」) 「無法地帯」(踊り)
- 13(土) "Body Synergy" (明治大学リベラルアーツ研究所) 自分の身体と出会ってみよう(ワークショップ)
- 14(日) ソレイマニエフィーニーアミール (千代田トレーディング株式会社代表取締役) + ルーミー・バンド 「イラン～ペルシア華麗なる美の伝統」(講演+演奏)
- 15(月) 仲里 効 (映像/文芸評論家) 「沖縄、そのイメージの群島へ」(講演+スライド上映) ※
- 16(火) 桜井大造 (劇団「野戦之月」) <テント芝居「考」わーくちよっぷ α 『テント場考』発題と発語の稽古> ※
- 17(水) 山本 薫 (アラブ研究者、東京外国語大学非常勤) 『アラブの春』と広場文化(講演)
- 18(木) 魯大鳴 (京劇役者/研究者) 「東洋演劇の実技と哲学について」(京劇の体験型ワークショップ) ※
- 19(金) 森永山紀 (明治大学商学部/教養デザイン研究科教授) 「ゲルで暮らすということ —モンゴルの遊牧から考える—」(ビデオ/写真を用いた講義)
- 20(土) 東野真 [予定] (NHKエグゼクティブ・プロデューサー) 「学ぶ」をもう一度考える (映像+講義) (映像・資料プログラム) ドキュメンタリー:「学ぶことの意味を探して～神田一橋通信制中学の歳月～」
- 21(日) 桜井大造、森美音子 (劇団「野戦之月」) <テント芝居「考」わーくちよっぷ β 『ガマ考』試演と感想戦>

踊り 「無法地帯」 サビついた空き缶の向こう側に、何が見えるのだろうか。／それは地図のようだ。／そこには幾筋もの道筋がある。／その一筋を辿っていく。

構想・踊り手 リュウセイオー龍



●プロフィール：1995年、10歳で野戦の月（バンブーアーク阿Qの陣）で舞台デビュー以降、現在に至るまで野戦の月海筆子、独火星の全公演に出演。2004年「Ryusei Dance Project」を立ち上げ、ソロ・ダンス公演「動く銅像」で広大な海に漕ぎ出す。06年にはEast Asia Tour Performanceに参加、ソウルをはじめ韓国の各地で踊る。10年、東京Plan-B、広島アビエルトにて「白い煙と黒い影」を公演。12年から「跳舞の空間」シリーズを開始。同年7月に障害者劇団「Pan」とともに「空想の版」を韓国ソウルで公演。Plan-Bでは年1回のソロ公演を続け、14年に台北の野外劇場にて、15年にはPlan-Bにて「泥壁」を公演。

自分の身体と出会ってみよう 講師 “Body Synergy”

確かに、自分の身体は自分のものです。ワークショップ

ですが、ちょっとした怪我をしたり体調を崩して、自分の身体が自分の意志ではどうにもならない、というような経験があります。もしかしら、自分の身体は自分の意識に対する「他者」なのかもしれません。今回のワークショップでは、自分自身の身体とあらためて出会い、そして、その身体を通してことば以前のコミュニケーションを経験していただきたいと思っています。簡単なダンス的な動きをしても構いません。でも、全然難しくはないです。身体を通して自己や他者とのコミュニケーションのことを考え直したいと思います。



●プロフィール：グループ名は“Body Synergy”です。2014年度から明治大学教養デザイン研究科に設置されている特定課題研究所、「明治大学リベラルアーツ研究所」の研究グループのひとつとして活動しています。主要メンバーはダンスの経験者や現役のダンサーですが、まったく違う専門の者もたくさんいて、月一回の定例ワークショップを行っています。



6/13(土)

講演+演奏 「イラン～ペルシア華麗なる美の伝統」 演奏 ルーミー・バンド

講師 ソレイマニエフィーニーアミール（千代田トレーディング株式会社代表取締役）



遊牧民のテントの必需品である絨毯は、イラン高原の地において、匠たちの誇りをかけて今日の「ペルシア絨毯」の美を培ってきました。ソレイマニエ氏のご厚意により、特別な絨毯展示と、その古来の工法の再現に努めてきたミーリー工房のご説明をいただきます。さらに、神秘主義詩人ルーミーの精神世界を音楽で表現するバンド四名による古典音楽のライブ演奏もあわせてお楽しみください。

ソレイマニエフィーニーアミール ●プロフィール：4代に亘りベルシャ絨毯の制作に携わる父と日本人の母の間に生まれ、9才までイラン・ラシュトで幼少期を過ごす。その後、高校まで日本で育ち、ニューヨーク市立大学で音楽を専攻。2005年ミーリー工房日本総代理店、千代田トレーディング株式会社入社。今年8月には銀座和光ホールにてミーリー工房ベルシャ絨毯イベントを行う。

ルーミー・バンド ●プロフィール：1999年にスィアー・ヴァッシュ・アーリアン・ファル氏を中心に結成。イランの古典楽器を使って、ペルシア語神秘主義詩人モウラーナー・ジャラルルッディーン・ルーミーの哲学的・精神的な世界観を表現することをめざす。六本木などでのライブ演奏とともに、映画やスーフイズム（イスラーム神秘主義）の所作・ダンスを伴ったパフォーマンスも行う。

講演+スライド上映 「沖縄、そのイメージの群島へ」

講師 仲里 勤

軍事的眼、観光的眼、社会運動的眼、さらに民俗学や言語学からポストコロニアルまで、日本と台湾のあいだに群れをなし、アジアに開かれた琉球弧の島々には、これまでいくつもの眼差しが集まり、分厚いイメージが作られてきた。そしていま、歴史の転換点を刻むように＜南＞がざわめきはじめている。そのざわめきを聴き取り、沖縄をめぐる眼差しのポリテイクとイメージの群島に映画と写真によって探訪してみたい。 ●プロフィール：1947年沖縄大東島生まれ。法政大学卒。批評家。1995年に雑誌「EDGE」(APO)創刊に加わり、編集長。主な著書に「悲しき亜熱帯」(未來社、2012年)、「フォトネシア」(未來社、2009年)、「沖縄イメージの縁(エッジ)」(未來社、2007年)等。



6/15(月)

講師 桜井大造（劇団『野戦之月』） 「テント芝居『考』わーくちよっぷ」

<テント芝居『考』わーくちよっぷα『テント場考』発題と発語の稽古>

「わーくちよっぷα」では、2つの切り口から、テントという「場」を「考」える。すなわち、「個」と「集団」の現在の関係とは何か？ 現在「表現する」とは何か？ 若干の討論後に参加者全員による「発語の稽古」（歌と朗読）。 ●プロフィール：この10年は、東京の『野戦之月』、台北の『海筆子』、北京の『流火』の3つのテント芝居グループにて活動。芝居の費用は観客からの取入と参加者の自己負担による。これまで各地域の各種助成金も受けたことはない。自律的なアマチュアリズムを標榜している。2015年夏秋には『野戦之月』が東京地区にて、秋には『流火』が北京にて、来年春には『海筆子』が台北にて公演を予定している。

6/16(火)

講演 『『アラブの春』と広場文化』

講師 山本 薫（アラブ研究者、東京外国語大学講師）

2011年1月のチュニジアを皮切りにアラブ諸国に広がった、長期政権打倒を求める市民運動、いわゆる「アラブの春」から約4年。運動の現場では、一体何が起きていたのか。広場や路上で繰り広げられていたアートやパフォーマンスを、当時の写真や映像を通じて追体験することで、創造性と機知に溢れたその市民的抗議の新たなスタイルが、世界各地で変革を求める人々に送った力強いメッセージの意義を、あらためて考えてみたい。 ●プロフィール：アラブ文学研究者。東京外国語大学ほか講師・研究員。東京外国語大学でアラビア語を学び、シリアとエジプトに長期留学。アラブ文学に加えて、映画や音楽といったポピュラーカルチャーについても研究・紹介を行う。共著に酒井啓子編『アラブ大変動』を読む——民衆革命のゆくえ（東京外国語大学出版会）2011年等。



6/17(水)

「東洋演劇の実技と哲学について」

講師 魯大鳴（ルー・ダーミン/ろ・だいまい）

ワークショップ

東洋演劇は、近代西洋とは違う発想から成り立っています。中国の京劇や日本の能楽の演技の根底には「個性は醜い。美は普遍的で没個性であるはず」「真のリアルさは写真とは違う」「演劇の本質は再生呪術である」などの暗黙的なコンセプトがあります。京劇のプロ俳優である魯大鳴先に歌や演技の型を実演していただきつつ、われわれ東洋人の本来の人間観、世界観についてわかりやすく解説します。演劇に興味のない人もぜひどうぞ。 ●プロフィール：京劇俳優。1958年中国北京生まれ。「北京風雷京劇団」でプロ俳優として活躍したあと、1987年に来日。日本で京劇普及に取り組む。京劇教室や講演の開催、能役者との共演、宝塚歌劇団での演技指導、NHKの教育番組「テレビで中国語」出演など多方面で活躍。明治大学でも中国語や京劇の授業を担当中。著書に「京劇役者が語る京劇入門」駿河台出版社、「京劇への招待」（小学館）「京劇入門」（音楽之友社）等。



6/18(木)

「ゲルで暮らすということ——モンゴルの遊牧から考える——」

講師 森永山紀（明治大学商学部教授）

草と水を求め家畜とともに移動する「遊牧」という営みは、土地を広く薄く利用するため、環境への負荷が小さいことが注目される。歴史的にみると、時に自然災害により家畜を大量に失うことがある一方、農耕限界を超えてダイナミックに生活圏を拡大した。20世紀以降世界的に定住化が進む中、モンゴルの草原で生業として数千年続けられてきた遊牧民のゲルの移動生活を通して、人間が、あるいは生き物が暮らすということについて考える。 ●プロフィール：専門は気候学、環境科学。日本女子大学卒、筑波大学大学院地球科学研究所中退（理学博士）。人間の居住限界での暮らし方に興味がある。院生時代は北アルプス剣沢、ネパールヒマラヤ、南極、チベットでフィールドワークを行った。現在の研究テーマはモンゴルの遊牧地馬乳酒の伝統的製造法の科学的検証を行っている。



6/19(金)

「学ぶ」をもう一度考える

映像+講義

講師 東野真（予定）

映像作品 「学ぶことの意味を探して～神田一橋通信制中学の歲月～」

「学ぶこと」は私たちの義務なの、権利なの？ 現在日本では2人に1人が大学に進学しています。皆さんもその1人です。大学で「学ぶ」ことを選択したことをもう一度考えてみませんか。アジア・太平洋戦争後の混乱で学ぶ機会を失った人が全国で2校しかない夜間中学で学んでいることを5年に亘り追いかけたドキュメンタリーです。人が学ぶ姿をカメラを通じて、もう一度見つめませんか。 ●プロフィール：現職・NHKエンタープライズ（制作本部 情報文化番組、エグゼティブ・プロデューサー、「日中戦争？なぜ戦争は拡大したのか？」（2006年2月9日放送）芸術祭最優秀賞



6/20(土)

6/21(日) <テント芝居『考』わーくちよっぷβ『ガマ考』試演と感想戦>

講師 桜井大造、森美音子（劇団『野戦之月』）

「わーくちよっぷβ」では、16日以後、希望者による事前の「自主稽古」を行う。これを中心とした構成にて、沖縄の「ガマ」をテントに招来し、「テント ガマ」において試演する。後に感想戦を行う。